



図-13 元場一彦所長らによる総合研究所の概要説明

と化学構造の新規性が注目され、殺虫剤として評価、化合物選抜が進められ、殺虫剤「フェニックス®」が誕生した。

最後に、総合研究所の充実した施設の隅々をご案内していただき、三位一体やオールランドスクリーニング体制

など興味あるお話を熱心にまた懇切丁寧にしていただいた、研究所長の元場一彦氏、探索マネージャーの村田哲也氏、安全性マネージャー榎哲夫氏、植物グループリーダー清川貴弘氏、代謝・環境グループリーダーの吉實隆志氏、全体調整をしていただいた市場開

発本部開発部の大塚 隆氏には心より感謝申し上げます。

同行者は、(公財)日本植物調節剤研究協会 仮谷道則

統計データから

飼料用米多収日本一

「飼料用米多収日本一」は、国産飼料用米の本作化を推進するため、飼料用米の単収向上の優れた取り組みを表彰することで、農林水産省と(一社)日本飼料用米振興協会が主催し、平成28年(2016年)度から実施されている。

全国の飼料用米生産者のうち、多収品種(知事特認を含む)の作付面積がおおむね1ha以上で、生産コスト低減等に取り

組む経営体からの応募を受け、学識経験者等で構成される審査委員会による審査を経て、①単位収量の部、②地域の平均単収からの増収の部ごとに、農林水産大臣賞、政策統括官賞、全国農協組合中央会会長賞等の各賞を選出している。

ここでは、平成28年から30年度の単収の部のベスト3を表に示した。ほぼ10a当たり1tに近い収量を上げている。(K.O)

表 飼料用米づくり日本一(単位収量の部)

順位	受賞者	品種	作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)
○ 平成30年度				
1	栃木県宇都宮市(安納 成一氏)	北陸193号	3.8	901
2	山口県山口市(長沼 靖夫氏)	北陸193号	0.8	818
3	山口県山口市 (農事組合法人 二島西)	北陸193号 みなちから	9.6 1.6	811
○ 平成29年度				
1	北海道美唄市(河野 享功氏)	きたげんき	1.0	968
2	北海道美唄市(佐藤 通之氏)	きたげんき	2.0	907
3	山形県酒田市(兵藤 卓弥氏)	べこあおば	2.7	848
○ 平成28年度				
1	宮城県加美郡加美町 (有限会社平柳カントリー農産)	夢あおば	2.3	932
2	秋田県横手市(新山 実氏)	秋田63号	2.5	897
3	富山県高岡市(三日市営農組合)	やまだわら	4.2	865